

地域と共に ～山形県防犯設備協会の紹介～



山形県防犯設備協会 会長

山形パナソニック株式会社 ソリューション事業部 取締役

齋藤 吉彦

1. はじめに

これまでの数年間、コロナ制限の中で皆様におかれましても、理想的な活動ができず、なにかと気苦労が多かったことだと思います。2022年に入り新型コロナの行動規制が、大きく緩和されてきており、山形県防犯設備協会としてもやっと例年通りの動き方になります。本稿では、前段で山形県の特徴や犯罪状況を記しまして、当協会の活動を紹介させていただきます。

2. 山形県の特徴

山形県は東北の日本海側に位置し、東京から概ね北に300km、山形新幹線で約3時間の距離にあり、面積は9,325km²（全国9位）、人口は約103万人（全国36位）で、一般には、全国生産量の7割を占める「さくらんぼ」と鮮やかな四季で知られています。

ロケーションは、蔵王、月山、鳥海、吾妻、飯豊、朝日と日本百名山に数えられる秀麗な山々に囲まれ、南から連なる米沢（置賜地方）、山形（村山地方）、新庄（最上地方）の各盆地と庄内平野（庄内地方）を「母なる川」最上川が流れる美しい自然に恵まれた地域です。これら4つの地方には、それぞれ異なった文化が今でも受け継がれており、方言もそれぞれ違う話し方があるので、来県された方は非常に興味深いと話しておられます。（出典：山形県移住ポータル <https://yamagata-iju.jp/>）



図1 県内4つのエリア

3. 山形県の犯罪状況

図2に、山形県警察本部が発表している犯罪統計資料を示します。刑法犯認知件数は、平成25年ごろの6,000件強より徐々に下がり、近年では約半数の3,000件ほどになっています。ALSOKが発表している“全国治安ワーストランキング2022”によれば、刑法犯認知件数は37位、人口における一定期間に発生した犯罪件数の割合の犯罪遭遇率は41位で、比較的犯罪の少ない地域特性といえます。

これに比例して、当防犯設備協会が犯罪抑止に関わっております窃盗犯（空き巣・忍込み等の侵入窃盗、乗り物盗、万引き等）の件数も降下の一途をたどっております。これは、県警察本部、山形県、防犯協会、地域の防犯活動をされている皆様のご尽力の賜物であり、大変感謝している次第です。後述しますが、防犯設備協会としても、防犯ガラス、防犯カメラ、錠前、警備、建設業、不動産など多くのお会社に会員として参画していただき、我々の日々の活動が微力でも貢献できており、励みとなっております。



図2 刑法犯認知件数に占める窃盗犯の割合
(出典:山形県警察統計資料)

4. 山形県防犯設備協会について

当協会が設立された目的を「山形県防犯設備協会は、防犯設備士の専門的な知識、経験の活用を図り、紅花の国山形を犯罪の起こりにくい、県民の安心で安

全なまちづくりを目指し積極的に防犯設備の啓蒙と普及拡大のため活動する。」ことと掲げ、平成19年6月8日、山形県警察本部・山形県・(社)山形県防犯協会連合会・(社)山形県警備業協会等のご指導の下で設立されました。現在では、電機設備、ガラス・サッシ、錠前、シャッター、警備、建設業、不動産など30社で構成されております。

活動内容は以下の3項目

- ▶防犯設備等の性能向上と普及に向けた、防犯設備等の調査・研究、標準・基準制定、審査・認定、相談・助言、防犯関連事業従事者の養成・資格認定、展示会、セミナーの開催等の事業
- ▶出版事業、防犯設備等に関する調査及び設計等の受託事業等の事業
- ▶広報活動、会報発行、関連団体との連携活動等の上記2項目以外の事業

2021年度までは、新型コロナの影響を受けまして、対面で行われる地域での防犯指導や技術研修会、関連団体との活動はほとんど行われておりませんでしたが、2022年度からは感染対策を講じながらも、徐々に通常の活動に戻りつつあります。当協会の立ち位置や加盟意義などを明確にするためにも、継続して活動を続けてまいります。

5. 山形県防犯設備協会の主な活動内容

協会の活動は犯罪を未然に防ぐ“防犯”に関わるもので、日進月歩で進化する最新の防犯機器については、現状やその使い方について、私どもが把握することは当然として、皆様に広くアピールする必要があります。これらに関連した、近年の協会活動の一部をイベント別に紹介します。

<協会主体活動>

○最新防犯設備の技術研修会

前記したように、協会に加盟されている企業は、監視カメラやセンサーなどの電機設備、防犯ガラスやサッシ、錠前などを様々な製品を取り扱っています。この技術研修会では、それぞれ得意とする分野の製品における新製品や必要とする技術の知識共有を図る

とともに、実際の導入時における注意点や勘所などの事例報告を行っています。加えて、例年3月に東京ビックサイトで開催されますセキュリティショーエモ出向、現在の機器の最新動向を体感するようにしております。



図3 技術研修会の様子

○各種防犯相談

ホームページやお電話にて、防犯に関わる問合せをいただきます。事務局では、内容をお聞きいたしまして、地域や設備を判断しまして、協会会員の紹介をさせていただいております。しかしながら、すべて解決できているわけではなく、その中でも果樹の盗難防止については、農地に電源がないこと、警戒範囲が広いこと、主に屋外であることなどがあり、機器の性能面やコスト面で解決に決定打がないのが現状です。

○総会・理事会

年次活動として、事業報告や決算、計画や予算などを決議する総会を開催しております。ご来賓として、県警本部様、県防犯協会連合会様、県防災くらし安心部様、日本防犯設備協会様よりご参加いただきまして、ご来賓と協会会員による意見交換会もさせていただいております。また、外部講師による記念講演なども行います。

<他団体への参画活動>

○市町村防犯担当者研修会 講演

(県防犯協会連合会)

県防犯協会連合会様が年に1度開催されている会合において、県警本部様、県防災くらし安心部様と共に「最新の防犯機器について」の講演をさせていただいております。特に、防犯カメラについてはAI(人工知能)が搭載されたものが登場してきており、“顔認識”のみならず、近年では“マスク非着用”的検知、

“混雑検知”などの機能が搭載されてきました。今後も最新機器の動向に敏感になり、参加される市町村の皆様にお伝えできるよう努めています。



図4 市町村防犯担当者連絡研修会



○県犯罪のない安全で安心なまちづくり推進計画

評議委員（県防災くらし安心部）

本推進計画で協議され運用されている施策の中には、新たに「防犯カメラの適正な設置・運用の啓発」が盛り込まれています。これに関連して「山形県防犯カメラの管理及び運用に関する指針」が取りまとめられております。防犯カメラを設置し、管理・運用される方々に、県民等のプライバシーに十分配慮しながら、守っていただきたい基本的な事項をまとめたものです。当協会は、本取り決めの評議員として参加し意見交換をさせていただきました。現在は、県民の皆様からのご相談に際し、これら指針を基本としたアドバイスをいたしております。

○県立図書館での防犯機器の展示・実演

（県警本部）

山形市中心部にあります県立図書館（遊学館）において、毎月イベントを開催しております。その中で県警本部様主催の“みんなでつくろう安心なまち”と題

し、小さなお子様たち向けに親子で参加できる交通安全や防犯に関するイベントに協賛させていただきました。当協会からは、体感できる防犯設備として、顔認証機能付きの金庫、音の出る防犯砂利、防犯ガラスの展示とデモをさせてもらいました。休日ということもあり、大変多くのご家族に立ち寄っていただき、進化する防犯設備について興味深く見学されておりました。私どもの取り扱う設備は、一般の皆様には中々お見せするシーンがありません。このようなイベントには積極的に参加しまして、私どもの活用や製品を数多く露出していくこと思っています。



図5 図書館での防犯イベント

○各市町村“安心安全なまちづくり大会”

講演・展示（市町村：山形市、白鷹町など）

前記しました“市町村防犯担当者研修会”と連動しまして、各市町村主催でも安全大会が企画されます。その中で、当協会からは、最新の防犯機器の機能やトレンドなどの講演や展示をさせていただいております。展示数に限りはありますが、カメラ付き防犯街灯や防犯砂利など、地域の防犯活動をされております皆様にご説明させていただきました。



図6 市町村安全大会

○オレオレ詐欺対策用電話講習会

（県警本部、県防災くらし安心部、天童市など）

県警本部生活安全企画課が取りまとめております「特殊詐欺被害及び阻止状況（令和4年）」によりますと、オレオレ詐欺や架空料金請求詐欺など、主に電話を介した被害が、前年同時期に比べ被害件数は+26件、被害金額は約+4,300万円と増加しています。各方面から、初めから電話に出ないで留守番電話機能を活用してほしいとお願いしておりますが、当県のように高齢者の多い地域では、なかなか浸透しないのが現状です。県警本部様や県防災くらし安心部様より依頼を受けまして、各イベントに出向き、実際の電話機を動かして着信時に、特殊詐欺を警戒させるメッセージを聞いていただきたり留守番電話の設定方法を体感していただきたり、県民の皆様に説明させていただきました。次の写真は、県警本部様が主催されましたイベントの様子です。



図7 電話講習会の様子

6.まとめと今後の課題

現在、海外の人物がSNSを通じてスマホから指示を出しZ世代の若者を募り、人に危害を加えることを厭わない凶悪な強盗を実行させるといった事件がメディアを賑わせています。それをうけて、財産や家族を守るために防犯に関する意識が向上しています。一方では、情報化社会の中において、現地で下見をする必要がなく、大手の地図サイトで情報を得ることができる時代となりました。

私ども防犯設備協会として、これらの社会情勢に敏感になり情報を集めるとともに、各自得意とする最新設備の動向をメンバー間で共有するところが重要と考えております。